

竹林ボランティア山口

●会長 中村雄二
●会員 20人
●連絡先 083-927-4034
(中村会長方)

139
まち 人 person group 流

仁保にある「モデル竹林」



整備前



整備後



会員手作りの見張り台や滑り台、秘密基地は子どもたちに大人気！



月に2回、第2、4水曜が
定例活動日。60歳過ぎの
若者のみなさん、お待ちしています！



会長
中村 雄二さん



趣味の登山中、人工林や竹林が荒廃しているのを目の当たりにし、「他人事ではなく何とかしなければ」と里山再生活動をライフワークとして取り組んでいる、「竹林ボランティア山口」会長の中村雄二さんに会の活動を伺いました。

●会設立のきっかけは？

平成17年に山口農林事務所が開催した「竹林ボランティア養成講座」を受講したメンバーが中心となって、市内に数多く点在する荒廃した竹林を整備して、日本の原風景である美しい里山に再生しようと「竹林ボランティア山口」を結成しました。

●どんな活動を しているのですか？

市内の里山や市街地の竹林の公園化や神社仏閣などの文化施設周辺の竹林整備、市内の企業と連携し里山の再生を行っています。今は建材や生活道具に竹を使わなくなったため、竹林は荒廃し、周辺の雑木林やスギ、ヒノキなどの人工林を侵食して、竹は邪魔者のように思われがちです。そこで、整備で発生した竹材を「ちようちんまつり」の提

灯を飾る竹や一の坂川を灯す「アートふるりバーナイト」の竹燈籠用に提供しています。また竹楽器で演奏する楽団の楽器を作ったり、山口森林ふれあいセンターで竹細工のワークショップを開いたりして、竹の普及に努めています。

●活動の楽しみは？

荒廃した竹藪が整備され、美しい竹林に甦った時の達成感は格別で、1回体験するとまた来たくなります。爽快な汗を流し、竹林内の涼やかな風で癒される気分はなんとも言えません。春は、親戚や知り合いに採取した竹を提供でき、喜んでもらっています。

●今後の展開は？

現在、会員の多くが60歳代後半なので、定年を迎えた団塊世代の人たちにも入会してもらい、楽しく世代交代を図りたいと思っています。同時に若い世代のボランティアとも交流を図り、竹文化に関する伝統技術を引き継いでもらいたいですね。竹は木に比べて成長も早く優秀な素材と言えます。新たな用途やデザインで付加価値の高い製品が開発できれば、竹林の荒廃問題は一挙に解決できるので夢が広がります。